

ゴマの死が教えてくれた事

一年 石切山桃佳

私の家には、五匹の猫がいます。みい、マロン、ひじき、モカ、ラテ、この五匹と一緒に住んでいます。この五匹は、家に来た時期も性格もバラバラです。そしてもう一匹、私が生まれる前からいたゴマという猫がいました。私は生まれた時からゴマと一緒に育ってきました。ゴマはとても人懐っこい性格で、誰からも可愛がられる猫でした。だけど、昨年の一月に十三才で病気で亡くなりました。家族が目の前で亡くなった悲しみを今でも覚えています。

その後、母から動物についての話がありました。「動物は可愛いだけでは育てられない、色々な覚悟を持たなきゃね」と言われ、私はあまり意味がわかりませんでした。

その後、母が『ある犬のおはなし』殺処分ゼロを願って』という動画を見せてくれました。私は、殺処分の事を初めて知り、とても悲しくなり涙が出ました。日本では、年間約三万八千頭の動物が殺処分されているそうです。そして、保健所に預けられた犬や猫たちは、一週間の時間が与えられます。その一週間の間に里親や飼い主が見つからないと殺処分が行われます。犬と猫はまとめてガス室という所に入れられ、そして二酸化炭素が排出されます。保健所では「安楽死」させてくれると知っている人達

が多いようですが、実際には犬や猫たちはとても苦しみながら死を迎えます。その子たちは何も悪くないのに殺されてしまうのは、とても悲しい事ですが今の日本の現実です。

ドイツでは殺処分がゼロだそうです。日本でも殺処分ゼロにするために、取り組んでいる自治体もたくさんあります。動物愛護法でペットを寿命が来るまで面倒を見るのは、努力義務とされていますが、鳴き声がうるさい、思ったより大きくなってしまった、子供が出来たからなどの飼い主の都合で保健所に持ち込まれる動物たちがいるのも現実です。

私は、どんな小さな命でも生きる権利があると思います。その命を守るために私が出来た事としてはとても少ないと思います。まずは家の五匹の猫たちを大切に育てていき最期の日が来るまで、愛情を持って面倒を見ていきたいと思います。母が言った「可愛いだけでは育てられない、色々な覚悟を持たなきゃね」その言葉の意味がわかりました。

私が大人になるまでには、日本も殺処分ゼロの国になって欲しいと思います。ペットを飼おうと考えている人は、家に迎える前にもう一度、一つ一つの小さな命の大切さをしっかりと考えて最期まで面倒を見る、その気持ちを忘れないで欲しいです。